

標本の3次元解析による病理組織診断支援

概要・品質・性能

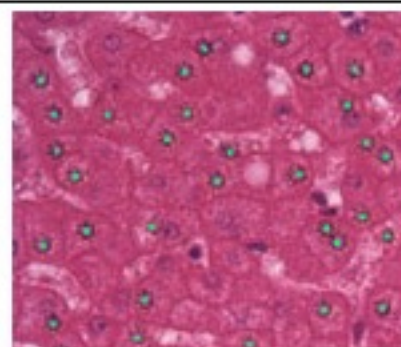
癌などの病気を診断する病理組織診断の画像解析システムは、基本的に標本を2次元の対象物として解析しており、標本の厚さなどが異なる場合に対応が困難であった。

標本を3次元として解析する技術を新たに実現したことで、様々な施設で共通して利用可能な診断支援システムの実現を可能とした。

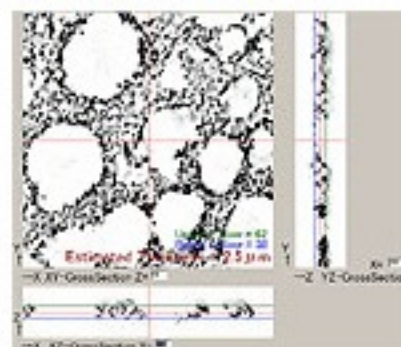
試作機では、核の3次元的な密度、サイズや形状特徴などの測定を実現した。

また、3次元解析の基盤技術として、光学顕微鏡を用いて病理組織標本の厚さを非破壊測定する技術を実現。

本技術は、吸収率のみが異なる薄膜の厚さ測定へも応用可能である。



病理組織診断支援システム



標本厚さ測定結果

用途

- (1) 肝組織向け、その他臓器への応用も可能
- (2) 吸収率以外に差が無い薄膜の厚さ測定
- (3) 球状物体の3次元密度測定

技術移転

- (1) 形態 共同研究開発、研究開発委託
- (2) 相手先 問わない
- (3) 地域 国内・海外いずれでもよい

実用化・情報

- [試作・実験] 完了
- [製造・販売実績] なし
- [技術情報の提供] 技術資料
- [情報提供者] 芝浦工業大学 知的財産本部
- [連絡先] 産学官連携・知財管理課
- TEL.03-5859-7180 FAX.03-5859-7181
- (画像応用システム研究室 高橋正信先生)

特許等